【資料４】

令和２年度
病院事業計画について

１）病院事業計画のまとめ

２）直近５年の経営実績

令和3年10月1日

荒尾市民病院 経営企画課

◆目　次

１章　病院事業計画のまとめ

＊年度当初の目標値と実績の比較

１）主な取り組み　【１】

２）医業収益の確保　【２】

ⅰ）患者数等

ⅱ）診療単価のUP

３）経営の効率化　【４】

ⅰ）人件費の適正化

ⅱ）材料費の削減

ⅲ）戦略的経営の実施

２章　直近５年の経営実績

＊黒字自治体病院との比較（医業利益がある病院）

１）主な経営指標の推移（グラフ）　【７】

２）診療実績　【12】

３）決算状況　【13】

＊主な数値は決算統計を基に算出しています。

１章　病院事業計画のまとめ

１）主な取り組み

総　評

　世界的に猛威を振う新型コロナウイスル感染症の流行により病院体制及び個人の生活、企業活動など一変した年であった。
　コロナ禍での経営においては、平成21年度より12期連続で単年度黒字決算とすることができた。（平成26年度は会計制度の変更により赤字であったが、実質黒字である。）
　新型コロナウイルスの影響により医業収益が減少している病院が多い中、前年度と比べ入院収益で約128,625千円の増収となり、外来収益で約39,816千円の減収となり医業収益で増加させることができた。また、新型コロナウイルス感染症患者受入に伴う支援金も活用したことで、765,094千円の純利益を計上することができた。
　累積欠損金は、平成20年度に最大4,255,501千円であったが、毎年度順調に解消しており、令和2年度末には63,065千円まで減少した。
　今後も継続して第二期中期経営計画を基に、地域完結型医療の提供体制の維持、また、新病院建設へ向けて、収益の確保と費用削減を徹底し、経営の健全化を目指す。

1)新型コロナウイスル感染症への対応　　重点医療機関として指定

　令和2年4月より、重点医療機関として新型コロナウイスル感染症専用病棟を設け、感染患者の受入体制を構築した。また、帰国者・接触者外来や発熱外来、ドライブスルーＰＣＲ検査等を実施し、有明医療圏での感染症患者の早期発見、対応、治療を一連化できる体制を整え、疑似症含め多数の感染患者を受け入れた。
　一方では、がん診療連携病院、脳卒中急性期拠点医療機関、心筋梗塞等心血管急性期拠点病院、地域医療支援病院、災害拠点病院等として有明地域の住民の健康維持に努める責任があり、感染予防を継続しながら治療に取り組まなければならない難しい状況が続いている。

2) 新病院建設　　新病院建設に向けてECI方式での実施設計のまとめ

　令和元年11月にとりまとめた「新病院建設基本設計」の内容を基に、設計会社とECI方式を採用した建設工事実施設計技術協力により、実施設計を令和3年1月に取りまとめた。
　また、次年度からの新病院工事契約を締結する為の準備を実施しており、令和3年度に契約を行い、本体工事着工に向けて進めている。

3) 医療機器の整備　　医療機器の導入・更新及び新病院へ向けた機器整備計画

　最新の全身用Ｘ線ＣＴ診断装置（３２０列）の追加整備、デジタルＸ線透視撮影装置、動画ネットワークシステム、全身麻酔装置の更新を行っている。
　さらに、新病院へ向けた医療機器整備計画として、医療機器等の現有品調査及び部署毎に現場担当者への希望調査ヒアリングによる整備・配置計画を実施した。今後、予算内での整備・購入計画を進めるため、導入機器の優先順位や具体的仕様について絞り込み、新築移転に伴う医療機器整備計画の具体化を進めている。

１章　病院事業計画のまとめ

２）医業収益の確保

ｉ）患者数等

区分	R1 実績　A	R2 目標　B	R2 実績　C	前年実績 対 差引　C-A	目標 対 差引　C-B
入院患者数	225.6　人/日	239.0　人/日	207.8　人/日	▲ 17.8　人/日	▲ 31.2　人/日
新規入院患者数	4,127人	4,440人	3,838人	▲ 289人	▲ 602人
年間平均在院日数	15.6日	15.0日	14.2日	▲1.4日	▲0.8日
入院診療単価	47,639円	49,453円	53,559円	5,920円	4,106円
外来患者数	351.3　人/日	360.0　人/日	319.7　人/日	▲ 31.6　人/日	▲ 40.3　人/日
外来診療単価	19,104円	19,537円	20,216円	1,112円	679円
病床稼働率(274床)	82.3%	87.2%	75.8%	6.5%	11.4%
(256床)	88.1%	93.4%	81.2%	6.9%	12.2%

＊274床・・・許可病床　　＊256床・・・実稼働病床

令和２年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、入院・外来患者数について大きな打撃を受けた年度となった。

入院について、令和２年度の１日平均患者数は前年度比17.8人減の207.8人となった。新規入院患者数では、前年度比289人減の3,838人となり、病床稼働率においても前年度比6.5%減の75.8%（274床）となった。

しかし、平均在院日数は1.4日短縮し14.2日となったことで、患者1人1日当たりの診療単価が前年度比5,920円増の53,559円となり、前年を上回る入院収益を確保し、目標を達成することができた。

予算目標値との比較では、1日平均患者数において31.2人減、新規入院患者数で602人減となったが、診療単価において4,106円の増となり、年間平均在院日数においても0.8日短縮することができた。

外来について、令和２年度の1日平均患者数は前年度比31.6人減の319.7人となった。

また、診療単価は前年度比1,112円増の20,216円となったが、前年を下回る外来収益となった。

予算目標値との比較では、1日平均患者数において40.3人減となり目標値に及ばなかったが、診療単価については、679円増と目標を上回ることができた。

これらの結果より、前年度と比較すると、入院収益では128,625千円の増加、外来収益では39,816千円の減収となり、合計88,809千円の増収となった。

しかし、当初予算と比べると入院収益で239,966千円、外来で144,538千円不足しており、合計384,504千円目標に届かなかった。

１章　病院事業計画のまとめ

２）医業収益の確保

ⅱ）診療単価のUP

①DPCの機能評価係数ＵＰ

区分		H31.4	R2.4	R3.4	前年増減
基礎係数		1.0314	1.0404	1.0404	－
機能評価係数Ⅱ	小計	0.08207	0.07932	0.07932	－
機能評価係数Ⅰ	小計	0.2448	0.2748	0.2764	0.0016
合計		**1.3583**	**1.3945**	**1.3961**	**0.0016**
参考	公立玉名中央病院	1.3655	1.4169	1.4184	0.0015
	大牟田市立病院	1.4299	1.4552	1.4712	0.0160
	公立八女総合病院	1.4696	1.5047	1.5148	0.0101
	筑後市立病院	1.2827	1.3681	1.3681	0.0000
	福岡市民病院	1.4145	1.4256	1.4566	0.0310

令和２年度には、医療機関別係数において機能評価係数Ⅰでは急性期看護体制加算２（25：1）の上位基準を満たすことができ、令和３年度より0.0016ポイント増加させることができた。

なお、機能評価係数Ⅱにおいては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、令和３年度までの経過措置として平成３０年１０月から令和元年９月の実績値で判定した係数が据え置かれているため、増減はなかった。

これらの結果、令和３年４月時点の医療機関係数は1.3961となり、前年同月比0.0016の増となった。しかし、「参考」に示す近隣の5自治体病院と比べても、係数が低いことがわかる。

今後収益確保において、医療機関別係数を増加又は維持するために係数の要因分析及び職員間での情報の共有が必須課題であり、今後も施設基準の取得及び上位加算の取得などにより、診療内容を充実させ医業収益の確保をしなければならない。

②在院日数の短縮

区分	R1	R2目標	R2	前年増減
平均在院日数（日）	15.6	15.0	14.2	▲ 1.4
新規入院患者（人）	4,127	4,440	3,838	▲ 289
退院患者数（人）	4,158	－	3,851	▲ 307

本年度は、年度当初より新型コロナウイルス感染症患者の受入の為、１病棟（３７床）を感染症専用病棟として確保した。また、確保に伴い病棟再編を実施し、急性期医療を維持しながら感染症患者の受け入れをおこない、効率的な病床運用を実践してきた。

また、昨年と比較して新規入院患者数は289人、退院患者数は307人減少しているが、平均在院日数は昨年と比べ1.4日短縮し14.2日となり短縮することができた。

さらに、目標値である新規入院患者数4,440人には602人及ばなかったが、平均在院日数15.0日に対しては0.8日短縮することができた。

目標値である15.0日を目指すには、現在、適用率が低いパスの充実・実施や退院支援の強化等により回転率を向上させる必要がある。

今後は、目標値に達するような新規入院患者数を確保することで、平均在院日数の短縮、病床稼働率の向上、患者1人1日当たりの診療単価の向上に繋げ、「より効率的な経営」を実践しなければならない。

１章　病院事業計画のまとめ

３）経営の効率化

ｉ）働き方改革の推進

働き方改革について、当院の勤務環境改善計画におけるビジョン達成に向け、本年度は以下①～④についての取組みを実施した。

【勤務環境改善計画：ミッション】

地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療を提供する。

【勤務環境改善計画：ビジョン】

仕事と生活を両立させ、職員がいきいきと働き続けることができる職場環境を整備する。

①労働時間に関する考え方の整理、確立

全職員を対象としたものとして、医師業務役割分担委員会等において業務・業務外の検討を重ね、棲み分けを行った。その内容は、ルールとして明文化し全職員へ周知を行い、令和３年４月１日に施行することとした。

②年次有給休暇の取得促進

年次休暇については、本年度から２年間で全職員平均３．０日増を目標としており、本年度は、昨年度比で、１人平均０．９日増、年次休暇取得率４．８％アップの結果であった。【部署毎の取得日数・取得率は下記のとおり】

	医局		看護部		診療技術部		事務部		健康管理センター 相談支援センター		全体	
	平均取得日数	取得率	平均取得日数	取得率	平均取得日数	取得率	平均取得日数	取得率	平均取得日数	取得率	平均取得日数	取得率
R1	8.6	45.6%	8.4	42.0%	11.3	56.1%	9.8	46.6%	10.1	50.5%	9.3	46.4%
R2	8.3	41.4%	10.1	50.5%	11.7	58.7%	9.0	45.0%	10.5	52.6%	10.2	51.2%
		down ↓		up ↑		up ↑		down ↓		up ↑		up ↑

③連続勤務時間、勤務間インターバルの是正

連続勤務時間２８時間以上の回避、勤務間インターバル９時間の確保に向けては、現状把握の結果、是正が必要な職種は医師のみであった。常勤医師で協力し維持している救急外来診療の業務も含めた労働時間について、勤務体系の見直しについて検討し方法を決定した。実施時期については、新型コロナウイルス感染症の影響と関連する医師の業務状況を鑑み、次年度の中で状況を見ながら判断することとした。

④業務効率化による時間外勤務の削減

毎月、個人別の時間外勤務状況の確認を行い、各所属長へ過多について報告を行ってきた。

また、本年度は特に新型コロナウイルス感染症のための時間外業務が増加したため、各所属長へ報告を行い特定の職員へ業務が偏っていないか確認をし改善をお願いしてきた。

【本年度の時間外勤務の状況は下記のとおり】

	医局		看護部		診療技術部		事務部		健康管理センター 相談支援センター		全体	
	総残業時間	1人当り 月平均 残業時間	総残業時間	1人当り 月平均 残業時間	総残業時間	1人当り 月平均 残業時間	総残業時間	1人当り 月平均 残業時間	総残業時間	1人当り 月平均 残業時間	総残業時間	1人当り 月平均 残業時間
R1	15,017	34	22,077	10	19,579	21	1,263	10	1,116	14	59,051	16
R2	20,176	39	20,252	10	17,666	19	1,847	12	879	9	60,819	17

１章　病院事業計画のまとめ

３）経営の効率化

ⅱ）材料費の削減

①薬品費削減　（円）

区分	R1	R2目標(予算)	R2	前年増減
値引率	12.6%	15.0%	13.5%	0.9%
後発品医薬品目割合	28.6%	30% 以上	30.4%	1.8%
後発品医購入金額割合	10.1%	－	9.6%	▲0.5%
後発品使用量割合	92.2%	80% 以上	91.7%	▲0.5%
医業収益比率（薬品）	13.4%	12.7%	12.9%	▲0.5%
薬品費	794,670,618	800,000,000	776,341,138	▲ 18,329,480
医業収益	5,917,728,313	6,322,599,000	6,009,039,471	91,311,158

価格交渉等による値引率は13.5%となり目標である15.0%は達成することができなかったが、昨年より0.9%上回った。後発医薬品に関しては、品目割合及使用量割合において昨年を上回る結果となったが、後発品の不安定な供給が続いたこともあり購入金額割合では0.5%減少した。

結果として、薬品の医業収益比率は目標である12.7%と比較して0.2%増加したが、昨年度と比較すると0.5%減少した。

薬価が下がる傾向にある環境下で値引率を維持するには困難な状況であるが、今後も継続して後発医薬品の割合、使用量共に増やすとともに、薬品費の約2割を占める高額薬剤の取扱及び交渉にも注力し、薬品費の対医業収益比率をさらに減らしていく必要がある。

②材料費の医業収益比率　（円）

区分	R1	R2目標(予算)	R2	前年増減
材料費	1,278,824,815	1,369,640,000	1,296,027,401	17,202,586
うち薬品費	794,670,618	840,000,000	776,341,138	▲ 18,329,480
うち診療材料費	473,449,302	524,600,000	503,188,185	29,738,883
医業収益	5,917,728,313	6,412,955,000	6,009,039,471	91,311,158
医業収益比率 ： 材料	21.6%	21.4%	21.6%	0.0%
うち薬品	13.4%	13.1%	12.9%	▲0.5%
うち診療診療材料	8.0%	8.0%以下	8.4%	0.4%

医業収益は昨年と比べ約9,100万円増加したこともあり、材料費としては約1,700万円増加した。内訳としては、薬価のマイナス改定や値引率のアップにより薬品費では約1,800万円の減少となっているが、新型コロナウイルス感染症対応の為のＰＰＥ関連の高騰及び大量消費、さらに新型コロナウイスル感染症の検査に係る試薬の購入量増加に伴い診療材料費が約3,000万円増加した。

そのため、薬価改定及び価格交渉により予算範囲内とはなったが、比率比較すると薬品費で0.5%減少したが、診療材料費で0.4%増加した影響により、材料費全体で0.2%比率が増えた。

今後も継続的に材料費の価格交渉を実施し、医業収益比率を抑え利益率の向上を目指さなければならない。

１章　病院事業計画のまとめ

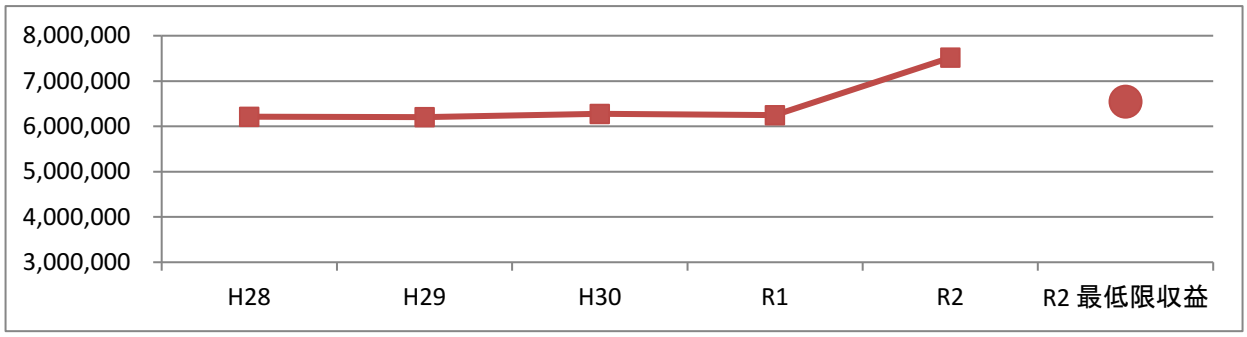
３）経営の効率化

ⅲ）戦略的経営の実施

R3目標純利益　68,845千円

損益分岐点の分析による次年度の経常収益管理　（千円）

区分	H28	H29	H30	R1		R2	R3 最低限必要な収益
				当院	黒字病院（274床）		
経常収益	6,213,189	6,203,070	6,274,049	6,246,133	8,159,901	7,516,362	6,542,333
変動費	1,266,812	1,195,697	1,240,045	1,278,825	2,165,673	1,296,027	1,273,954
固定費	4,533,363	4,732,051	4,889,509	4,958,832	5,754,725	5,451,710	5,345,410
限界利益	4,946,377	5,007,373	5,034,004	4,967,308	5,994,228	6,220,334	5,268,379
経常利益	413,015	275,322	144,495	8,477	239,503	768,624	
限界利益率	79.6%	80.7%	80.2%	79.5%	73.5%	82.8%	
損益分岐点	5,694,398	5,862,005	609,396	6,235,474	7,833,867	6,587,592	
FM比率	91.7%	94.5%	97.1%	99.8%	96.0%	87.6%	



限界利益率が高いほうが経営的には利益が上がりやすいため、固定費の削減や変動費(率)の削減に力を入れる必要がある。なお、全国黒字病院と比較しても、約9%高い結果となり、効率的な経営ができている。

しかし、FM比率は平成28年度以降、継続して悪化していたが、令和２年度は87.6%と前年と比べ12.2%改善している。

上記内容の要因としては、新病院へ向けた職員の増員による人件費の増加、建設に関する委託費など固定費の増加、さらに、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い様々な費用が必要だった中で、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援金を活用することで例年以上の経営状況となっている。

新病院建設移転まで、人件費及び委託費の増加、予期しない支出などが見込まれるため、安定した経営には少しでも多くの利益を追求する必要があり、短期間での収益確保に向けた取り組みが必要である。

なお、令和３年度の目標を達成するために、経常収益6,542,333千円を確保しなければならない。

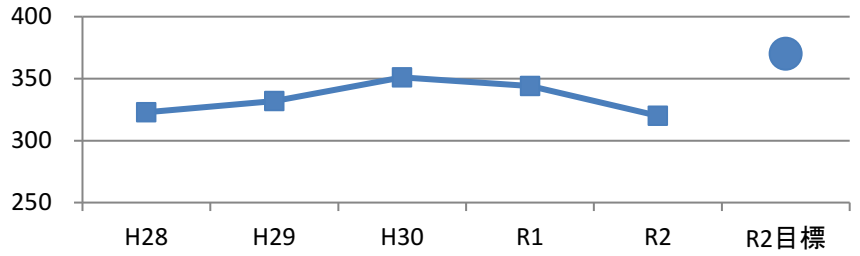
【固定費】 患者の増加に関係なく必要な費用　（給与費、経費、研究研修費・・・・等）
【変動費】 上記以外の患者数により増加する費用（材料費）
【限界利益】 患者数が0人の時でも、最低限必要な金額　（経常収益-変動費）（利益+固定費）
【限界利益率】 売上高に対する限界利益の割合であり、率が高いほど利益が増加
【FM比率】 固定費の限界利益に対する比率であり、率が低いほど効率的な経営

２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

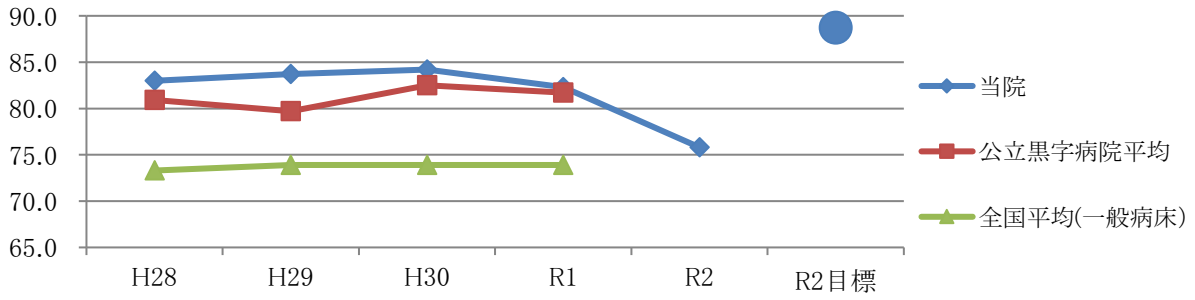
（１）新規入院患者数の増加　（人/月）

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R2目標
月平均	323	332	351	344	320	370



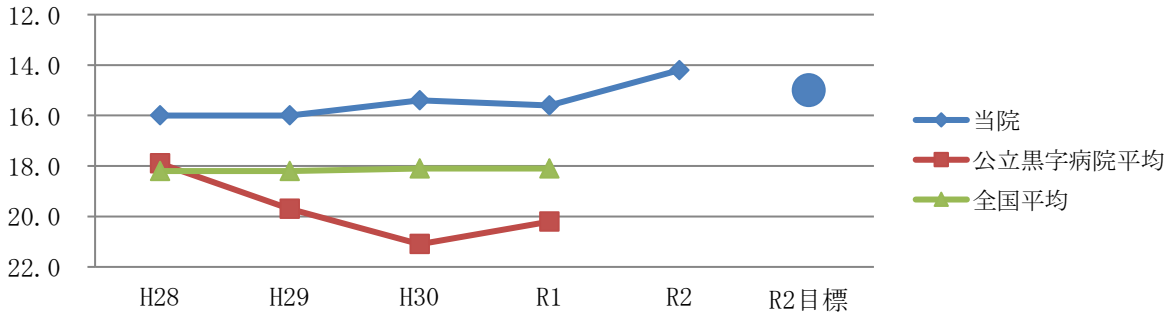
（２）病床稼働率（274床）　（%）

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R2目標
当院	83.0	83.7	84.2	82.3	75.8	88.7
公立黒字病院平均	80.9	79.7	82.5	81.7	－	－
全国平均(一般病床)	73.3	73.9	73.9	73.9	－	－



（３）平均在院日数(一般病床のみ)　（日）

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R2目標
当院	16.0	16.0	15.4	15.6	14.2	15.0
公立黒字病院平均	17.9	19.7	21.1	20.2	－	－
全国平均	18.2	18.2	18.1	18.1	－	－

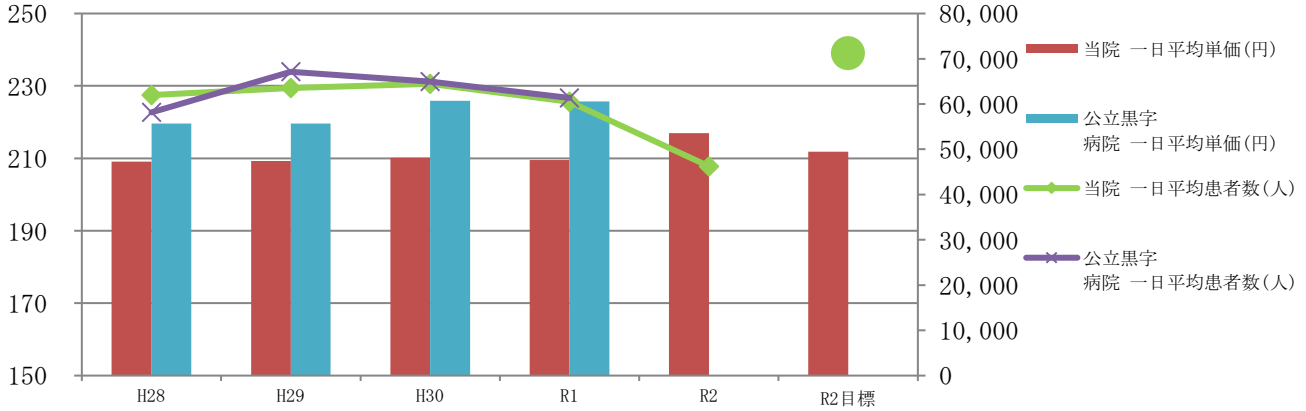


２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

（４）入院患者数等　　＊公立黒字病院は274床換算

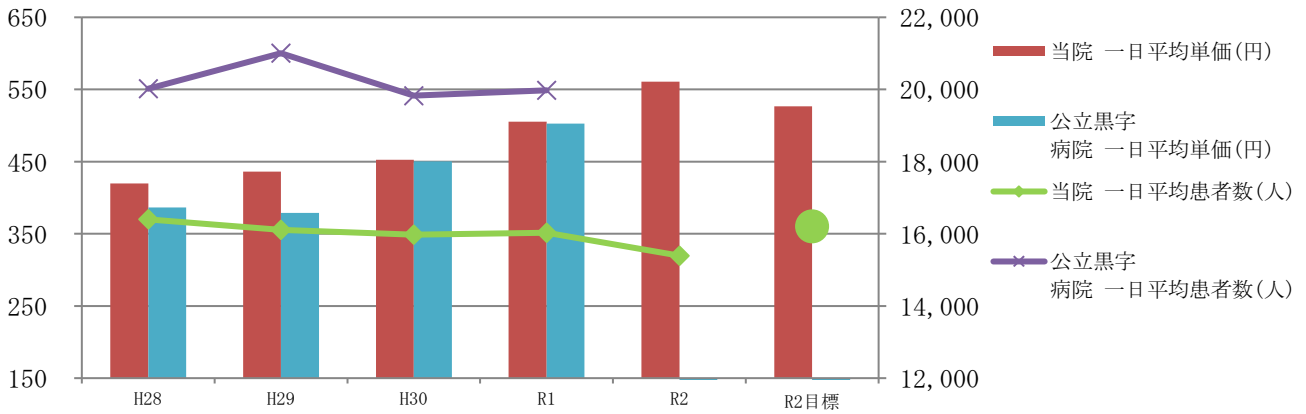
		H28	H29	H30	R1	R2	R2目標
当院	一日平均患者数(人)	227.5	229.4	230.6	225.6	207.8	239.0
	一日平均単価(円)	47,288	47,383	48,142	47,639	53,559	49,453
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	222.7	233.9	231.2	226.7	－	－
	一日平均単価(円)	55,715	55,684	60,729	60,541	－	－



（５）外来患者数等　　＊公立黒字病院は274床換算

		H28	H29	H30	R1	R2	R2目標
当院	一日平均患者数(人)	370.0	355.6	348.6	351.3	319.7	360.0
	一日平均単価(円)	17,400	17,721	18,049	19,104	20,216	19,537
公立黒字病院	一日平均患者数(人)	551	600	541.5	548.9	－	－
	一日平均単価(円)	16,729	16,575	18,008	19,053	－	－

＊本院の特性である医師会との役割分担（2次救急以上等）を重要視している為、患者数は少ない傾向にある。



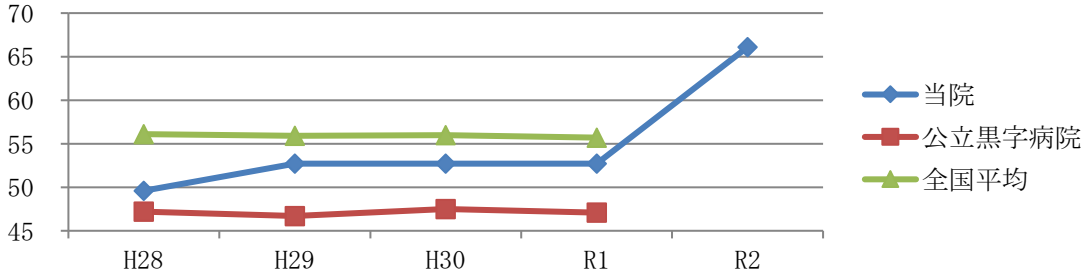
２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

（６）職員給与費対医業収益比率　（%）

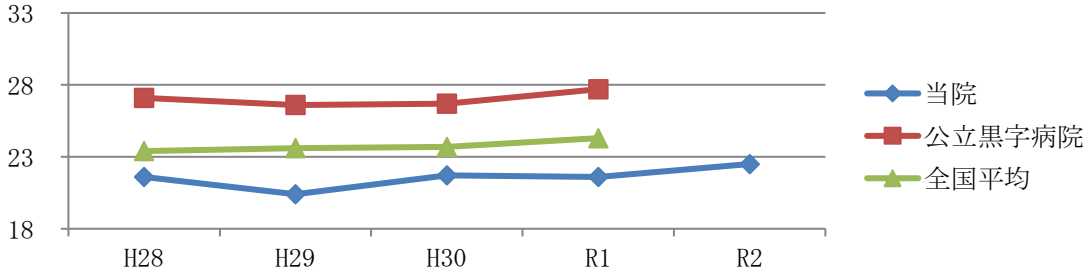
区分	H28	H29	H30	R1	R2
当院	49.6	52.7	52.7	52.7	66.1
公立黒字病院	47.2	46.7	47.5	47.1	－
全国平均	56.1	55.9	56.0	55.7	－

＊Ｒ２より、決算統計上の給与に正職員に加え、会計年度任用職員、報酬等が含まれております。



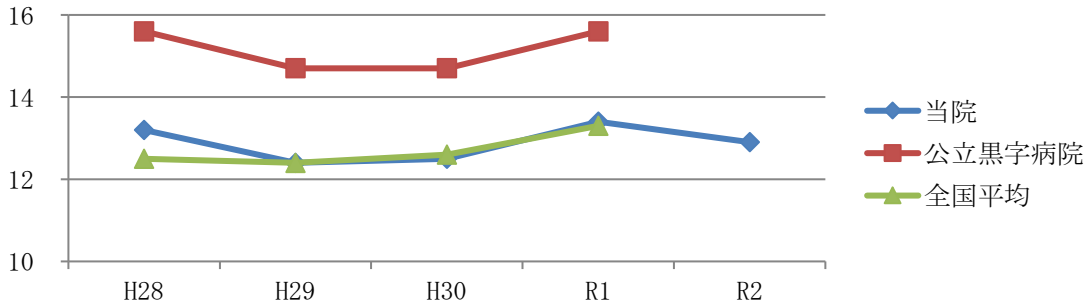
（７）材料費対医業収益比率（薬品含む）　（%）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
当院	21.6	20.4	21.7	21.6	22.5
公立黒字病院	27.1	26.6	26.7	27.7	－
全国平均	23.4	23.6	23.7	24.3	－



（８）薬品費対医業収益比率　（%）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
当院	13.2	12.4	12.5	13.4	12.9
公立黒字病院	15.6	14.7	14.7	15.6	－
全国平均	12.5	12.4	12.6	13.3	－

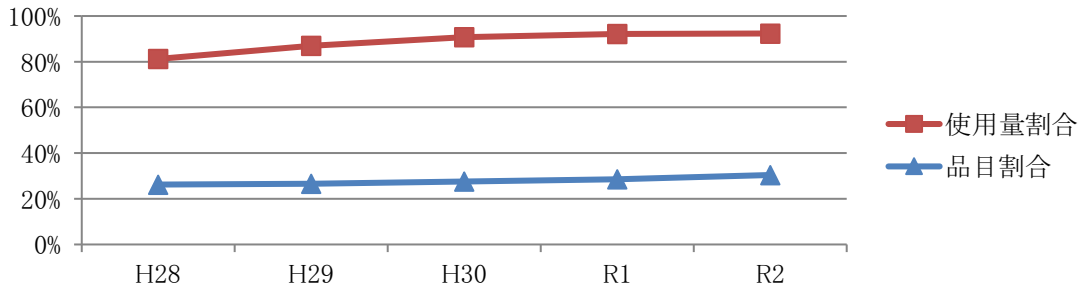


２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

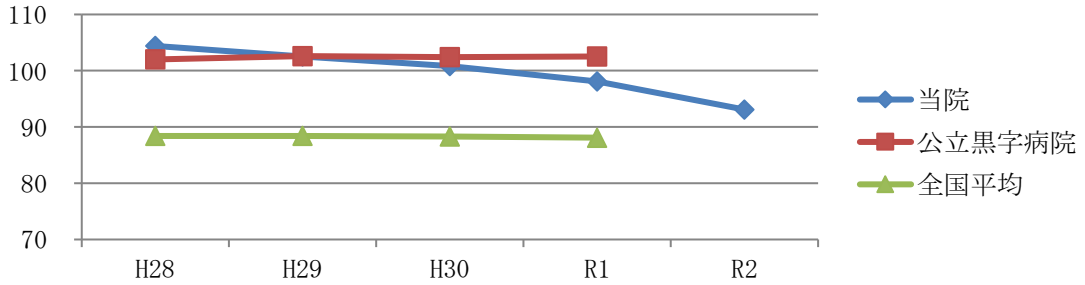
（9）後発医薬品の採用品目割合　（品）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
採用医薬品	1,575	1,562	1,510	1,369	1,595
うち後発医薬品	413	416	417	391	485
品目割合	26.2%	26.6%	27.6%	28.6%	30.4%
後発品のある先発品使用量	173,988	125,974	88,130	71,324	66,650
後発品の使用量	752,129	842,020	858,103	841,466	804,855
使用量割合	81.2%	87.0%	90.7%	92.2%	92.4%



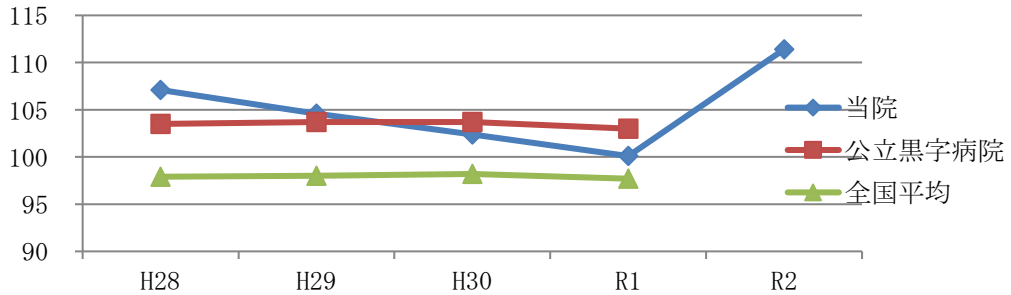
（10）医業収支比率　（%）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
当院	104.4	102.5	100.8	98.1	93.1
公立黒字病院	102.0	102.6	102.4	102.5	－
全国平均	88.4	88.4	88.3	88.1	－



（11）経常収支比率　（%）

区分	H28	H29	H30	R1	R2
当院	107.1	104.6	102.4	100.1	111.4
公立黒字病院	103.5	103.7	103.7	103.0	－
全国平均	97.9	98.0	98.2	97.7	－

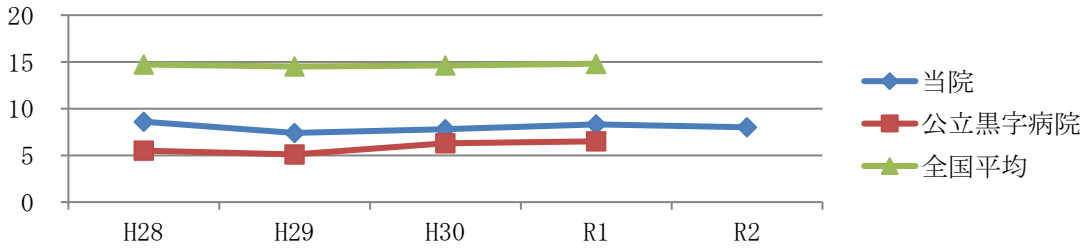


２章　直近５年の経営実績

１）主な経営指標の推移

（12）他会計繰入金対医業収益比率（収益的収支）　（%）

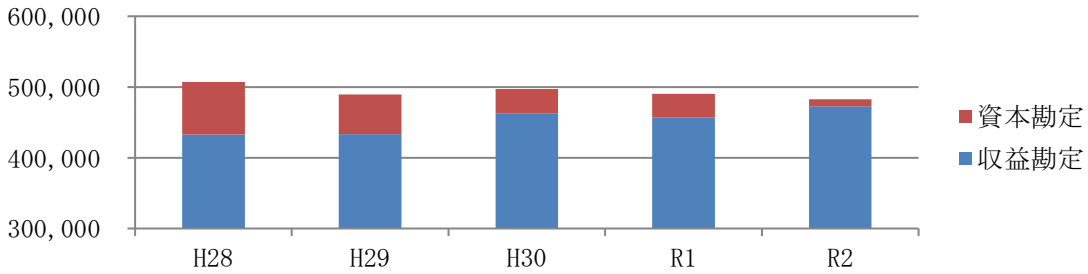
区分	H28	H29	H30	R1	R2
当院	8.6	7.4	7.8	8.3	8.0
公立黒字病院	5.5	5.1	6.3	6.5	－
全国平均	14.7	14.5	14.6	14.8	－



（13）他会計からの繰入状況　（千円）

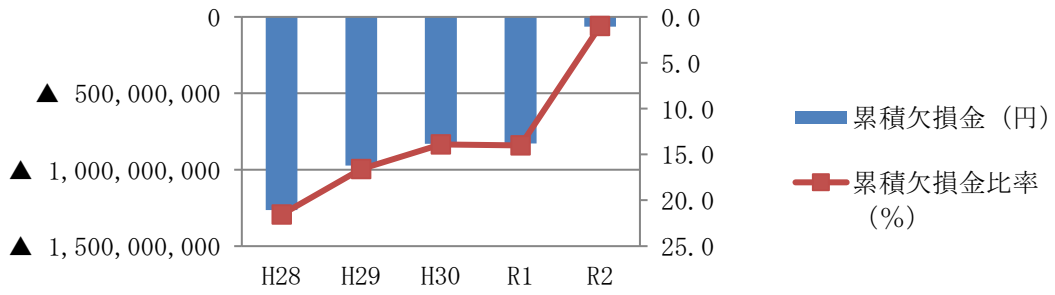
区分	H28	H29	H30	R1	R2
収益勘定	432,700	433,412	462,494	457,030	472,660
資本勘定	74,261	55,978	34,804	33,245	9,880
合計	506,961	489,390	497,298	490,275	482,540

*H28年より特例債償還に伴い、特例債（約２億円）に対する繰入金の減少



（14）累積欠損金

区分	H28	H29	H30	R1	R2
累積欠損金（円）	▲ 1,263,919,184	▲ 973,547,656	▲ 830,637,402	▲ 828,159,282	▲ 63,065,272
累積欠損金比率（%）	21.6	16.6	13.9	14.0	1.0



２章　直近５年の経営実績

２）診療実績

区分			H28実績	H29実績	H30実績	R1 当院実績	R1 黒字病院	R1 差	R2実績
病床100床当たり医業収益（千円）	入院収益		1,432,938	1,448,013	1,478,690	1,435,563	1,827,880	▲ 392,317	1,482,506
	外来収益		570,981	561,238	560,291	587,752	927,569	▲ 339,817	573,221
	その他医業収益		136,110	133,610	138,972	136,440	152,453	▲ 16,013	137,353
		内室料差額収益	4,524	5,005	5,555	4,308	24,078	▲ 19,771	3,803
	計		2,140,029	2,142,861	2,177,953	2,159,755	2,907,902	▲ 748,147	2,193,080
病床利用率（%）	一般		84.2	85.0	85.4	83.5	81.7	1.8	76.7
	感染症		0.0	0.0	0.0	0.1	1.9	▲ 1.8	16.5
	計		83.0	83.7	84.2	82.3	80.7	1.6	75.8
１日平均患者数（人）	入院		227.5	229.4	230.6	225.6	226.7	▲ 1	226.7
	外来		370.0	355.6	348.6	351.2	548.9	▲ 198	548.9
患者１人１日当たり診療収入（円）	入院		47,288	47,383	48,142	47,639	60,541	▲ 12,902	53,559
	外来		17,400	17,721	18,049	19,104	19,053	51	20,216
平均在院日数（一般病床のみ）			16.0	16.0	15.4	15.4	20.2	▲ 4.8	14.2
医師１人１日当たり診療収入（円）			395,871	374,743	315,585	309,403	327,780	▲ 18,377	266,836
看護師１人１日当たり診療収入（円）			75,616	76,212	65,371	73,145	76,189	▲ 3,044	60,876
病床１００床当たり職員数（人）	医師		13.9	14.6	17.5	18.2	22.3	▲ 4	19.7
	看護部門	看護師	74.5	75.5	74.8	76.6	84.1	▲ 7	80.3
		准看護師	0.0	0.0	0.0	0.0		0	0.0
		看護助手	0.0	0.0	0.0	0.0		0	0.0
	薬剤部門		3.6	2.6	2.6	2.9	5.4	▲ 2	3.6
	事務部門		9.5	9.5	9.1	8.4	15.9	▲ 8	9.1
	給食部門		1.1	1.1	1.1	1.1	3.2	▲ 2	1.1
	放射線部門		4.7	5.1	5.1	5.5	5.1	0	5.5
	臨床検査部門		5.1	5.8	5.8	6.6	6.6	▲ 0	6.6
	その他		17.9	19.7	21.9	24.1	13.2	11	22.3
	計		130.3	133.9	138.0	143.4	164.9	▲ 21	148.2
平均年齢	事務職員		40.9	41.9	42.1	42.0	43.0	▲ 1.0	43.7
	医師		45.9	44.9	42.7	43.2	45.0	▲ 1.8	43.5
	看護師		39.2	38.8	37.1	37.3	39.0	▲ 1.7	37.5
	准看護師		－	－	－	－	－	－	－
	医療技術員		34.9	35.2	37.7	35.2	39.0	▲ 3.8	35.6
	その他職員		31.0	33.3	34.0	35.9	47.0	▲ 11	30.4
	計		38.9	38.7	38.2	38.2	40.0	▲ 1.8	37.9

＊黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（763病院中28病院）

＊職員数については、正職員の職員で計上しています。本来であれば、Ｒ２より、決算統計上の給与に正職員に加え、比
会計年度任用職員、非常勤医師が含まれますが比較の為除外しています。

＊職員数【その他】：リハビリテーション科、臨床工学科、社会福祉士、精神福祉士、介護士・・・等

２章　直近５年の経営実績

３）決算状況

区分		H28実績	(100床当)	H29実績	(100床当)	H30実績	(100床当)	R1実績	(100床当) 当院	黒字病院	差	R2実績	(100床当)
収益的収支	経常収益 A	6,213,190	2,267,588	6,203,070	2,263,894	6,274,049	2,289,799	6,246,133	2,279,611	3,080,878	▲ 801,267	7,516,361	2,743,197
	医業収益 a	5,863,679	2,140,029	5,871,438	2,142,861	5,967,591	2,177,953	5,917,728	2,159,755	2,907,902	▲ 748,147	6,009,039	2,193,080
	うち料金収入(b+c)	5,490,737	2,003,919	5,505,347	2,009,251	5,586,808	2,038,981	5,543,883	2,023,315	2,755,449	▲ 732,134	5,632,692	2,055,727
	入院収益 b	3,926,250	1,432,938	3,967,555	1,448,013	4,051,610	1,478,690	3,933,442	1,435,563	1,827,880	▲ 392,317	4,062,067	1,482,506
	外来収益 c	1,564,487	570,981	1,537,792	561,238	1,535,198	560,291	1,610,441	587,752	927,569	▲ 339,817	1,570,625	573,221
	うち他会計繰入金 d	217,779	79,481	218,140	79,613	230,274	84,042	228,764	83,491	81,441	2,049	239,023	87,235
	医業外収益	349,511	127,559	331,632	121,034	306,458	111,846	328,405	119,856	172,976	▲ 53,120	1,507,322	550,118
	うち他会計繰入金 e	289,182	105,541	215,272	78,566	241,544	88,155	261,511	95,442	107,611	▲ 12,169	243,517	88,875
	経常費用 B	5,800,175	2,116,852	5,927,748	2,163,412	6,129,554	2,237,064	6,242,318	2,278,218	2,990,450	▲ 712,232	6,747,737	2,462,678
	医業費用 f	5,617,881	2,050,322	5,729,089	2,090,908	5,921,430	2,161,106	6,034,184	2,202,257	2,836,852	▲ 634,595	6,454,551	2,355,676
	うち職員給与費 g	2,908,470	1,061,485	3,094,760	1,129,474	3,142,788	1,147,003	3,116,392	1,137,369	1,370,466	▲ 233,096	3,969,186	1,448,608
	うち材料費	1,266,812	462,340	1,250,892	456,530	1,295,219	472,708	1,333,948	486,842	817,678	▲ 330,836	1,351,147	493,119
	うち減価償却費 h	233,975	85,392	236,284	86,235	263,833	96,289	247,896	90,473	168,923	▲ 78,450	232,760	84,949
	うち委託費	445,550	162,609	403,948	147,426	458,906	167,484	603,720	220,336	240,175	▲ 19,839	553,770	202,106
	医業外費用	182,294	66,531	198,659	72,503	208,124	75,958	208,134	75,961	153,599	▲ 77,637	293,186	107,002
	うち支払利息	9,872	3,603	7,142	2,607	5,841	2,132	4,662	1,701	26,643	▲ 24,942	3,651	1,332
	医業損益 (a-f) C	245,798	89,707	142,349	51,952	46,161	16,847	▲ 116,456	▲ 42,502	71,050	▲ 113,552	▲ 445,512	▲ 162,596
	経常損益 (A-B) D	413,015	150,735	275,322	100,482	144,495	52,735	3,815	1,392	90,428	▲ 89,035	768,624	280,520
	特別利益	738	269	21,667	7,908	1,934	706	1,930	704	4,276	▲ 3,572	123,361	45,022
	うち他会計繰入金 i	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	特別損失	3,207	1,170	6,617	2,415	3,519	1,284	3,267	1,192	18,430	▲ 17,238	126,891	46,311
	純損益 E	410,546	149,834	290,372	105,975	142,910	52,157	2,478	904	76,273	▲ 75,369	765,094	279,231
	繰入前 医業損益(C-d)	28,019	10,226	▲ 75,791	▲ 27,661	▲ 184,113	▲ 67,195	▲ 345,220	▲ 125,993	▲ 10,391	▲ 115,602	▲ 684,535	▲ 249,830
	繰入前 経常損益(D-d-e)	▲ 154,275	▲ 56,305	▲ 274,450	▲ 100,164	▲ 392,237	▲ 143,152	▲ 553,354	▲ 201,954	▲ 98,625	▲ 103,329	▲ 977,721	▲ 356,832
	繰入金 (収益勘定)　計 d+e+i	506,961	185,022	433,412	158,180	471,818	172,196	490,275	178,932	▲ 189,052	367,985	482,540	176,109
資本的収支	資本的収入(純計)	176,734	64,501	464,978	169,700	539,704	196,972	201,195	73,429	－	－	534,104	194,928
	うち企業債	163,200	59,562	409,000	149,270	503,700	183,832	166,400	60,730	－	－	267,100	97,482
	うち他会計繰入金 j	0	0	55,978	20,430	25,480	9,299	0	0	－	－	0	0
	資本的支出(純計)	474,123	173,038	669,700	244,416	846,145	308,812	512,136	186,911	－	－	844,529	308,222
	うち建設改良費	177,862	64,913	410,009	149,638	522,491	190,690	186,780	68,168	－	－	528,128	192,747
	うち企業債償還金	275,111	100,405	227,491	83,026	281,954	102,903	278,806	101,754	－	－	281,201	102,628
繰入金合計　計 d+e+i+j		506,961	185,022	489,390	178,609	497,298	181,496	490,275	178,932	189,052	▲ 10,120	482,540	176,109
減価償却前経常損益 D+h		646,990	236,128	511,606	186,718	408,328	149,025	251,711	91,865	259,350	▲ 167,485	1,001,384	365,469
経常収支比率　A÷B		107.1	－	104.6	－	102.4	－	100.1	－	103.0	▲ 3.0	111.4	－
医業収支比率　a÷f		104.4	－	102.5	－	100.8	－	98.1	－	102.5	▲ 4.4	93.1	－
職員給与費対医業収益比率 g÷a		49.6	－	52.7	－	52.7	－	52.7	－	47.1	5.5	66.1	－
他会計繰入金対医業収益比率 (d+e)÷a		8.6	－	7.4	－	7.9	－	8.3	－	6.5	1.8	8.0	－
不良債務額　(千円)		0	－	0	－	0	－	0	－	－	－	0	－
不良債務比率　(千円)		0.0	－	0.0	－	0.0	－	0.0	－	－	－	0.0	－
累積欠損金　(千円)		1,263,919	－	973,547	－	830,637	－	828,159	－	－	－	63,065	－
累積欠損金比率　(千円)		21.6	－	16.6	－	13.9	－	14.0	－	－	－	1.0	－

＊黒字病院：自治体病院のうち医業利益がある病院（763病院中28病院）

＊平成２６年度より地方公営企業会計基準が変更となりましたので、適用前後で考え方が一部異なります。